

図書館情報専門学群における教育

中山伸一

図書館情報メディア研究科教授

図書館情報専門学群の教育目的

図書館やネットワークを介してやり取りされる知識や情報はあらゆる領域に及ぶことから、図書館情報専門学群では文科系や理工系といった枠にとらわれず、人間の知的活動にかかわる事柄について学際的総合的に学ぶことを基本としています。それを実現する事はなかなか困難であり、本専門学群の前身である図書館情報大学の頃から幾度かのカリキュラム改訂を経て、現在のカリキュラムに至っております。本稿では現在実施されている図書館情報専門学群のカリキュラムの概要を説明すると同時に、そのいくつかの特徴をご紹介します。

主専攻と履修モデル

図書館情報専門学群は図書館情報管理主専攻と図書館情報処理主専攻の2つの主専攻を持っています。図書館情報大学開学の際には図書館情報学部として学生全員が同

じカリキュラムを受講していました。その後社会の要請に伴い、現在の主専攻に対応する情報管理コースと情報処理コースという履修コースを導入しました。図書館情報専門学群になって、対象とする教育の領域をさらに絞り込み、育成を目指す人材のイメージを明確にした以下のような計6つの履修モデルを設定しています。

<図書館情報管理主専攻の履修モデル>

- 情報蓄積・提供機関としての図書館の社会的位置づけ、機能に関する知識を有し、図書館の運用を行う事ができる人材
- 広くコンテンツの組織化に関する知識を有し、種々のデータベース等の構築を行う事ができる人材
- 社会的文化的情報活動に関する知識を有し、種々の社会的文化的活動に参画する事ができる人材

<図書館情報処理主専攻の履修モデル>

- 情報処理技術とネットワーク技術に関する

る知識を有し、情報システムの開発に関わる事ができる人材

- コンテンツ作成における人間科学的、システムの知識を有し、種々の情報提供活動を行う事ができる人材
- データを分析的・解析的に扱う手法に関する知識を有し、様々なデータ処理のシステム構築に参画することができる人材

科目の構成

このような人材育成のために、以下のような科目の構成を設定し、階層的・体系的なカリキュラムの展開を目指しています。

<階層的構成>

学年進行に伴って学ぶ内容が専門化するよう、科目を以下のように展開させています。

- 図書館情報基礎科目：専門科目の前提となる多様な主題領域の知識を学ばせます。図書館情報学には多方面にわたる一般教養的な知識が必要ですので、必ずしも全ての科目を履修する必要はありませんが、人文系、社会系、自然・数学系からそれぞれ最低1科目は修得しなくてはなりません。これらの科目群は1・2年次で履修させています。
- 図書館情報科目：図書館情報学を学ぶにあたって必要となる中核的な知識を学ばせます。必修ではありませんが、ほとん

どの科目(17科目以上)を修得する必要があります。これらの科目群は1・2年次で履修させています。

- 主専攻共通科目：主専攻の専門科目を学ぶにあたって必要となる知識を学ばせます。これらの科目群は2年次の3学期に履修させ、進むべき主専攻に応じた科目を6科目以上修得する必要があります。
- 主専攻科目：それぞれの主専攻における専門性の高い知識を学ばせます。これらの科目群は3・4年次で履修させ、履修モデルの枠組みに基づいて一部の科目を修得すれば良いようにしています。

<体系的構成>

主専攻科目は多くの科目群が開講されています。これまでも多様な専門科目があり、学生は各自の興味のままに科目を受講してしまう傾向が見受けられました。そこで現在のカリキュラムでは、図書館情報科目、主専攻共通科目、主専攻科目の科目群をグループ化したクラスターを設定し、それぞれの履修モデルにはどのクラスターを学ぶべきかを提示して科目の履修を指導しています。

クラスターは40程あり、平均4科目程度からなります。各履修モデルには10個程を履修すべきクラスターとして設定しております。学生には、その目指す方向に応じて、そのクラスターの科目群をできるだけ全て履修するように指導しています。

<資格関連>

さらにこのような体系に組み込まれた形で以下のような資格関連の科目群があります。

○教員免許：図書館情報専門学群では、高校の情報、数学、公民、中学の数学、社会の教員免許が取得できます。これらの教職科目のうち教科に関する科目は、本学群の主として図書館情報基礎科目と図書館情報科目の中で展開されています。

○司書資格：司書資格は、図書館法施行規則第4条で必須の12科目18単位、選択の2科目2単位以上が規定されています。図書館情報専門学群ではこれらに相当する科目を開講しております。その多くは図書館情報科目に含まれるものですが、主専攻共通科目や主専攻科目も含まれています。

○司書教諭資格：学校図書館司書教諭講習規定第3条による5科目10単位は、主専攻科目として開講しています。これらの科目はどちらの主専攻からも履修できるように配慮しています。

科目の開設と時間割の工夫

階層的・体系的な構造を学生の科目履修にうまく適応させるために、以下のような取り組みを行っています。

<複数開講による大人数講義の排除>

図書館情報科目は、必修に準ずる科目であり、ほとんどの学生が受講するため、大

人数の授業となっていました。現在この科目群は、大人数授業になることを防ぐために2クラス開講を原則としています。授業の方法やテストのやり方などについては、まだ問題がありますが、改善しながらこの方向を進めていきたいと考えております。

<時間割による科目履修の保証>

学生が科目を履修するにあたって、時間割が物理的な障壁となります。そこで本学群では図書館情報科目については全ての科目を履修できる事、主専攻共通科目はいずれかの主専攻を選んだならその主専攻の全ての主専攻共通科目を履修できる事、主専攻科目についてはいずれかの履修モデルを選んだならその履修モデルで設定している全てのクラスターの科目を2年間のうちに履修できる事を保証するよう、時間割を作成しています。さらに基本的な時間割をほぼ固定化して、学生が長期的な展望で科目履修を行えるようにしています。

特色のある科目

図書館情報専門学群では、上述のように階層的、体系的な科目構成となるよう大局的な視点でカリキュラムを作成しておりますが、一方において以下のような特色のある科目を学群として開講しております。

○教養と科学

筑波大学にはフレッシュマンセミナーと

いう科目があり、新入学生の大学教育への適応の役割を担っております。しかしながら、この科目は1年次の1学期だけしか開講していません。図書館情報大学では、1年次と2年次において、いわゆる文章を読む、まとめる、議論する、発表するなどの基礎教養的な講義を展開しております。図書館情報専門学群でも、そのような講義を展開し、かつフレッシュマンセミナーの内容を継続できるよう、1年次の2・3学期に必修の科目として教養と科学を開講しております。

○図書館情報学実習

図書館情報学は、実学的色彩が強く、図書館情報大学の頃は必修の科目として実習が設定されておりました。現在、実習は図書館情報管理主専攻の主専攻科目となっておりますが、実社会を経験する重要な科目として、学群教育委員会が作業グループを作って開設しております。

本専門学群の教育システムの特徴

学群の教育を効果的に実現するため、以下のような工夫を行っております。

<科目の教員間による調整機能>

図書館情報科目は2クラス開講を原則としておりますが、これらのクラス間で内容的に大きな差異が無いように、担当者間での調整が行われます。

また同じクラスターに含まれる科目群は、

類似した主題の関連科目です。そこで、科目間の教育内容の重複や、クラスター内での教育の展開を相互に検討するため、同じクラスターの科目担当者が話し合って調整するようにしています。

<授業評価>

授業評価は、図書館情報大学の頃からかなり積極的に取り組んで来ました。図書館情報専門学群になっても、同様の授業評価を筑波大学全体として行っているものとは別に実施しています。

その評価内容は詳細・多岐であり、学生の授業への取組について5項目、授業内容について11項目、授業環境について2項目、さらに自由記述欄を設けています。調査結果は教員にフィードバックされ、授業のやり方等の改善に役立てるようしております。

今後の展望

カリキュラムは生き物であり、その姿は刻々と変わっていきます。それは一方において能動的であり、また他方において受動的な変化です。図書館情報学は複合的な学問領域であり、教員が理想とする教育は多様で、また社会の求める教育も多様です。これらが調和したより優れた姿のカリキュラムを目指して、今後も不断の改訂が行われていくことを期待します。

(なかやま しんいち/応用情報学)